

2018年（平成30年）7月5日

海老名駅停車中の半自動スイッチ誤扱いについて（お詫び）

相模鉄道株式会社

相模鉄道㈱（本社・横浜市西区、社長・滝澤秀之）では、2018年7月4日（水）17時15分頃、相鉄線海老名駅2番線に停車中の列車において半自動スイッチ（車掌が操作することでお客さまが自由にドアを開閉できるもの）の誤扱いが発生し、一時ホームと反対側のドアが開閉できる状態となる事象が発生しました。

ご利用のお客さまには、大変ご迷惑とご心配をお掛けいたしましたことを深くお詫び申し上げます。詳細は下記のとおりです。

記

1. 発生日時 2018年7月4日（水）17時15分頃
2. 発生場所 相鉄線海老名駅（海老名市めぐみ町1-2）2番線
3. 状況
 - （1）当該列車が海老名駅2番線に到着（17時13分）し、車掌がホーム側の全てのドアを開けました。発車時刻（17時23分）まで10分の停車時間があったため、空調効果を高める目的でホーム側の半自動スイッチを操作（17時15分頃）し、お客さまが自由にドアを開閉できる状態にしました。
 - （2）同駅から担当する車掌は、当該列車に乗車し出発準備のためホーム側の半自動スイッチを扱うべきところ誤ってホームと反対側の当該スイッチを操作したため、全ドアの半自動スイッチを有効な状態にしてしまいました。
 - （3）所定の発車時刻（17時23分）になり、半自動スイッチの誤扱いに担当車掌が気づいたことから速やかに正規の状態に戻し、定刻から約2分遅れて発車しました。
 - （4）ご乗車されたお客さま（約500人）に線路へ転落された方やお怪我をされた方はいらっしゃいませんでした。
4. 原因 車掌の操作ミスによるもの。
5. 再発防止策 今回の事象を全車掌に周知し、半自動ドアの取り扱いについて指導・教育を再徹底するとともに、取り扱いの変更も含めて検討してまいります。

以上